

質疑応答(令和6年6月11日 1回目)

当日の質疑	当日の回答
前回の説明会でも出たと思いますが、配水池を前側に建設する理由について確認したい。	基本設計時は奥側に建設することとしていたが、この度の実施設計において再検討したところ、災害時の給水拠点となることを想定した場合には、奥側に建設するよりも、前側に建設したほうが給水車等も入りやすく、また水を貰いに来た人にも道路側のほうが良く、給水活動に有利であることと、土地の有効利用の観点からも前側に配水池、奥側に立体駐車場を建設した方が有利であるとの理由からです。
災害時にはどのように給水するのか	災害時には、配水管も被災し断水となることを想定しており、配水池に溜まっている2,200トンの水を給水車に直結して給水することになり、また水を求めに来た方々に配水池前の広場に並んでもらい配布するようなことも想定している。 奥側に建設した場合は、通路に建物が崩れてきて通路を塞ぐことも想定しており、道路側に建設したほうが有利と考えております。
今年の冬は駐車場は使えるのか	今年は工事の発注ができたとしても、実際の掘削工事までは掛かれないと考えており、杭の工場製作だけとなりますので駐車場は全面使えます。
サンスポーツランドに駐車したお客さんの場合、スキー場までの移動はどのようにするのか	サンスポーツランドに停められたられた方の多くはファミリーコースのほうからアクセスされております。 また、ゴンドラ側へというようなことの場合は、倶知安観光協会で運行しているシャトルバスを利用して頂くのがベターだと思います。
駐車場が使えなくなる時期は	令和7年度より本格的に工事を始める予定です。夏場は全面工事で使いますが、冬は残りのスペースで駐車可能です。
立体駐車場ができた場合、駐車場入り口が非常に狭くなると思うが監視員とかは配置するのか、迷惑駐車等があった場合どこに連絡すればよいのか	まだ管理方法が決まっていません。
新中区配水池が出来たら低区配水池は廃止するのか	一旦休止するまでは決まっているが、廃止するかまでは決まってません。
経営戦略の見直しの進捗状況は	来年度から見直し作業に着手するのでご理解をお願い致します。
駐車場の駐車台数が少くなる年度は令和7年度、令和8年度、令和9年度の3年間となり、令和10年度からは立体駐車場が出来て駐車台数が増えるとのことだが、それが伸びる可能性は	いまは、はっきりしたことは申し上げられませんが、情報は逐次発信していきます。

質疑応答(令和6年6月11日 2回目)

当日の質疑	当日の回答
<p>質問ではないんですけど、ぜひ、町民としての希望としてですね、意見を聞いて頂きたいと思うんですけど、計画自体、変更されてよくなつたと思うんですけど、もっといい方法があればよかったなあと。あんまり心から納得できる内容になってはおりません。ただ、これまでの意見させてもらったんですけど、納得がいけないのかなと思う。本当にあそこに住んでいて事業させてもらって、それで暮らしているんですけど、本当に将来を不安に思っているんですね。今、うちの周りで事業してるところはほぼ外国人、外国の企業で働いている人も外国人の人が多くんですよ。で、外からお金を持ってくる方がいっぱい来て、お金を使って、それから事業をされてる方がお金もうけをしてるんですけど、ほとんど外国人による外国人のビジネスのためにしているだけこの施設についてもそういう形の補うための施設なわけですよ。それはやっぱり町民の財産、土地とお金を使ってお膳立てをして外国人にレート与えるような、そんな感じしか感じられない。果たしてこれで倶知安町の未来がよくなるのかな。</p> <p>本当に疑問なんですよ。町民は限られた駐車場スペース、年々減って行って、駐車場にも来れなくなって、地元の人でも楽しめなくなって、私はたまたま近くに住んでいて、スキーも行けるし、それで事業をさせてもらって、恩恵受けてるんですけど、観光業者はあまり余り恩恵を受けてない中で負担をしている。今とどんどん施設が増えて行って、働く人が足りなくて、多分これから増えていく労働者、今既にやっぱり年々外国人の割合が多くなっていると思うんですけど、これから、やっぱり足りない労働力を補っていくのはやっぱ外国からの労働者と思うんですよ。恐らくますますとどん外国人の人が増えて行って、我々日本人は、楽しめなくなって、嫌気がさして、とどん離れて行って、何かそういう巡回になっって行って、それがもっともっとエスカレートして行って、今既に、そういう外国人のコミュニティーの中でとどん物事が進んで行って、我々も分からない。外国の住民の割合が増えていけば数が増えればそれがやっぱり数字力になって行って、行政に影響を及ぼすようになってそうなる、もともとの暮らす人たちが住みづらくなる。外国人に利用されている町になっていくんじゃないかなっていう、日本人がいなくなってしまうのではという、本当にそういう危機感を感じるんですよ。そこにつながっていく何かこの水道施設が、一つのような何かトリガになっている感じがしている。やっぱり、それだけ外から来た人にとって、楽しいところ魅力的なところだと思うんですよ。でもそれがやっぱり、地元と相談していない。町に相談していない。外から来ると、内外の格差があるんで、楽しみ、お金を使ってよさを知って、そこに住んでいきたい、ビジネスやってやろうと思えるけど、今日本はやっぱり外国スキルが弱いんで、楽しみもできないし始めることもできないし、そうなるやっぱ、この中カーンの流れってというのはもう、変えられない。民間の力では、とどんどん外国勢力をされて飲み込まれて行ってしまふ。そうなっちゃうんじゃないかと。そこでやっぱりそういう民間の動き、何かこう働きかけていってやっぱり町の役割として、もうもっと何かそういう支えていこうよな、町民が楽しめるよなスキーのまち倶知安として、町民がやっぱりスキーを楽しみ続けられるよなこの町に暮らしに続けていきたいと思えるよな、そういう町になっしてほしいなと思ってます。どうぞよろしくお願ひします。</p>	<p>今お話頂いたようにですね、暮らしている皆さんにとってはですね、まさに本当にそういったところっていうのはこの10年、20年の間で変化する中でですね、いろんな感じ方をしているんだと思っております。しかしながら最後にお話頂いたようにですね、町民であっても、外から来る人にとっても、この地域って、こういうところだよな。どれだけ、それぞれの立場立場によって、魅力の感じ方がとか、引きつけられるものっていうのは違うかもしれませんが、基本的に、地域の方々、この地域の本当に、愛し続けることができるということがまず大事だろうと思っております。このニセコリゾートっていう、ある意味、倶知安町だけではなくて、ニセコ町も含めてですね、今や世界中からもこれだけ注目されている中で、どういった方向性を持って世界に胸を張ってですね、こちらのリゾートっていうかこちらの観光地スキー場、こんなにすばらしいだろうっていう、どうやって打ち出すことができるかっていうのはまだまだ足りていないところが多いんだと思っております。ですけれども、一番肝腎なのはやっぱり地元の人たちが、もともとスキーのまちを宣言して50年経過しました。そういった50年前の、スキーに対する思いだとかっていうのは大分変わってきてはいると思います。しかしながら、根本的なところは全然変わってないと思いますので、そういったものっていうのをすごく大事にしながらやっていくということになります。ですから、世界中の方々にとっても、すばらしい地域、雪、羊蹄山、ニセコの山々ということへの伝え方、さらにはですね、住民にとってもいいことということで、一つのやり方としては本当にその水道施設、別に外国人のためにつくってわけではまるっきりなくて、あそこの生活地域としてのこれからの成長をどうやっていくっていう部分で、水というのはやっぱり生きていく上でも、お客様を迎える上でも欠かすことができないものですから、これはまた一つ、整えていかなければならないというのは町としても義務でもありますので、そういったところはしっかりと、除雪だとかも含めてですねいろいろな部分でインフラ整備っていうのはまだまだ足りてないので、しっかりとその辺をやっていく、その上に立ってこの地域をどうやってやっていくんだっていうのをですね繰り返し、試行錯誤しながらですね、暮らしていくっていうのが、これ繰り返し仕方がないのかな。仕方がないのかなということは我慢するっていうことではなくて、見いだしていくということがまずは大事なんじゃないのかなって個人的には思っておりますし、そういったまちづくりをこれからも進めていきたい。その一環として、やっぱりローカル割だとか、倶知安町民ならではの、この町、すごい暮らしてよかったっていうのも、やっぱりスキーのバスと連動した中ですね、今子供たちにスキーのシーズン券をお配りさせるもそうですし、これから大人の皆さんもですね、どれだけスキー場との距離感というのをキープしてくるかっていうことの積み重ね、あそこで飲食するにしてもですね、様々な部分で、外から来るお客さんとはまた違ったことができるような仕組みづくりっていうのも、急いでもっと強化していかなければならないというふうに考えておりますので、そういったところで、みんなで知恵を出しながら、生きていくっていう部分ではね、生業も含めて暮らしていく、お客様を迎えるということ、みんなで考えていきたい。</p>